

令和５年度瀬戸市地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市の水田（２１３ha※１）の作付状況の現状は、主食用米の作付面積が８８．２６ha※２となっており、愛知県から示される生産数量の目標の目安を例年下回るとともに減少傾向にある。一方で、自己保全管理水田の面積が６０．２１ha※３となっている。

要因として、生産者の高齢化や後継者不足により、遊休化した農地が増加していることが挙げられることから、認定農業者等の育成、農地利用の集積や生産性の高い作物を推進することで、水田を維持していくことが課題となっている。

※１ 令和４年度営農計画書の本地面積

※２ 令和４年度営農計画書の主食用米作付面積

※３ 令和４年度営農計画書の自己保全農地面積

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

地産地消の取組の一つとして、学校給食に地元産のお米や野菜を提供する取組に力を入れており、自己保全管理水田を活用して野菜作付を積極的に進めることで収益力を強化していく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

市内に牛・豚・鶏卵農家が存在する特色を活かして耕畜連携を推進し、WCS用稲や飼料用米の作付を行うことで水田を有効利用していく。

水田の利用状況の点検は、営農計画書及び現地確認によって行い、点検結果を踏まえて、水稻を組み入れない作付体系が数年以上定着し、畑作物のみを生産し続けている水田などについては、水田の畑地化の可能性を検討する。所有者や関係者等の意向など条件が整った場合には、補助事業を活用するなどして畑地化を実施していく。

4 作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

学校給食へお米を提供する取組を通じて、既存農家の作付維持・拡大を図るとともに、農業塾の開催による農業者の育成や、若手農業者への農地集約の推進を図ることで作付面積の維持に努める。

（２）備蓄米

取組なし

（３）非主食用米

ア 飼料用米

産地交付金を活用し、生産者、市内家畜農家、農協及び行政が連携して計画生産を行う。

イ 米粉用米

畑作物である麦、大豆の作付に向かない水田を中心に、戦略作物への転換を促すため、作付けを推進する。

ウ 新市場開拓用米

取組なし

エ WCS 用稲

産地交付金を活用し、生産者、隣接市の家畜農家、農協及び行政が連携して、栽培暦に準じた適正な施肥管理を徹底し、生産性と品質の向上を図りつつ計画生産を行う。

オ 加工用米

取組なし

(4) 麦、大豆、飼料作物

ア 麦

産地交付金を活用し、生産者、農協及び行政が連携して計画生産を行う。

イ 大豆

取組なし

ウ 飼料作物

取組なし

(5) そば、なたね

取組なし

(6) 地力増進作物

取組なし

(7) 高収益作物

産地交付金を活用し、地産地消の取組として学校給食への提供量を増やしていく
予定の「玉ねぎ」「キャベツ」を中心に作付面積を拡大するとともに、生産者の収益
が上がるよう道の駅瀬戸しなの産直販売所での地元農産物取扱い割合を増やしてい
くことで、作付面積を拡大していく。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等	当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作	うち 二毛作	うち 二毛作	うち 二毛作
主食用米	88.26		88.26		88.26
備蓄米					
飼料用米	0.39		0.39		0.39
米粉用米			0.31		0.31
新市場開拓用米					
WCS用稲	2.37		2.37		2.37
加工用米					
麦	0.31		1.53	0.31	1.53
大豆					
飼料作物					
・子実用とうもろこし					
そば					
なたね					
地力増進作物					
高収益作物	5.7		5.7		5.7
・野菜	5.7		5.7		5.7
・花き・花木					
・果樹					
・その他の高収益作物					
その他					
・〇〇					
畑地化					

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標		
				前年度（実績）	目標値
1	飼料用米（基幹作物）	飼料用米の生産性・品質向上等	栽培面積	（４年度） 0.39ha	（５年度） 0.39ha
2	WCS用稲（基幹作物）	WCS用稲の生産性・品質向上等	収量	（４年度） 2.247kg/10a	（５年度） 3,300kg/10a
3	麦（基幹作物）	麦の生産性・品質向上等	栽培面積	（４年度） 0.31ha	（５年度） 1.22ha
4	米粉用米（基幹作物）	米粉用米の生産性・品質向上等	栽培面積	－	（５年度） 0.31ha
5	野菜（別紙のとおり、基幹作物）	高収益作物に対する支援	栽培面積	（４年度） 5.70ha	（５年度） 5.70ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は３年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:愛知県

協議会名:瀬戸市地域農業再生協議会

整理 番号	使途 ※1	作 期 等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	飼料用米の生産性・品質向上等	1	4,600	飼料用米(基幹作物)	肥効調節型肥料による肥料の低減化、土壌改良剤又は堆肥の施用による土づくりの実施等
2	WCS用稲の生産性・品質向上等	1	5,300	WCS用稲(基幹作物)	肥料の低減化(堆肥散布)又は土づくり(土壌改良剤)の実施等
3	麦の生産性・品質向上等	1	5,800	麦(基幹作物)	肥料の低減化(堆肥散布)又は土づくり(土壌改良剤)の実施等
4	米粉用米の生産性・品質向上等	1	4,600	米粉用米(基幹作物)	肥料の低減化(堆肥散布)又は土づくり(土壌改良剤)の実施等
5	高収益作物に対する支援	1	7,900	野菜(別紙のとおり、基幹作物)	通常の肥培管理を行っていること等

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。